

文京区地域精神保健福祉連絡協議会 コア会議

令和3年9月30日 18：00～19：30

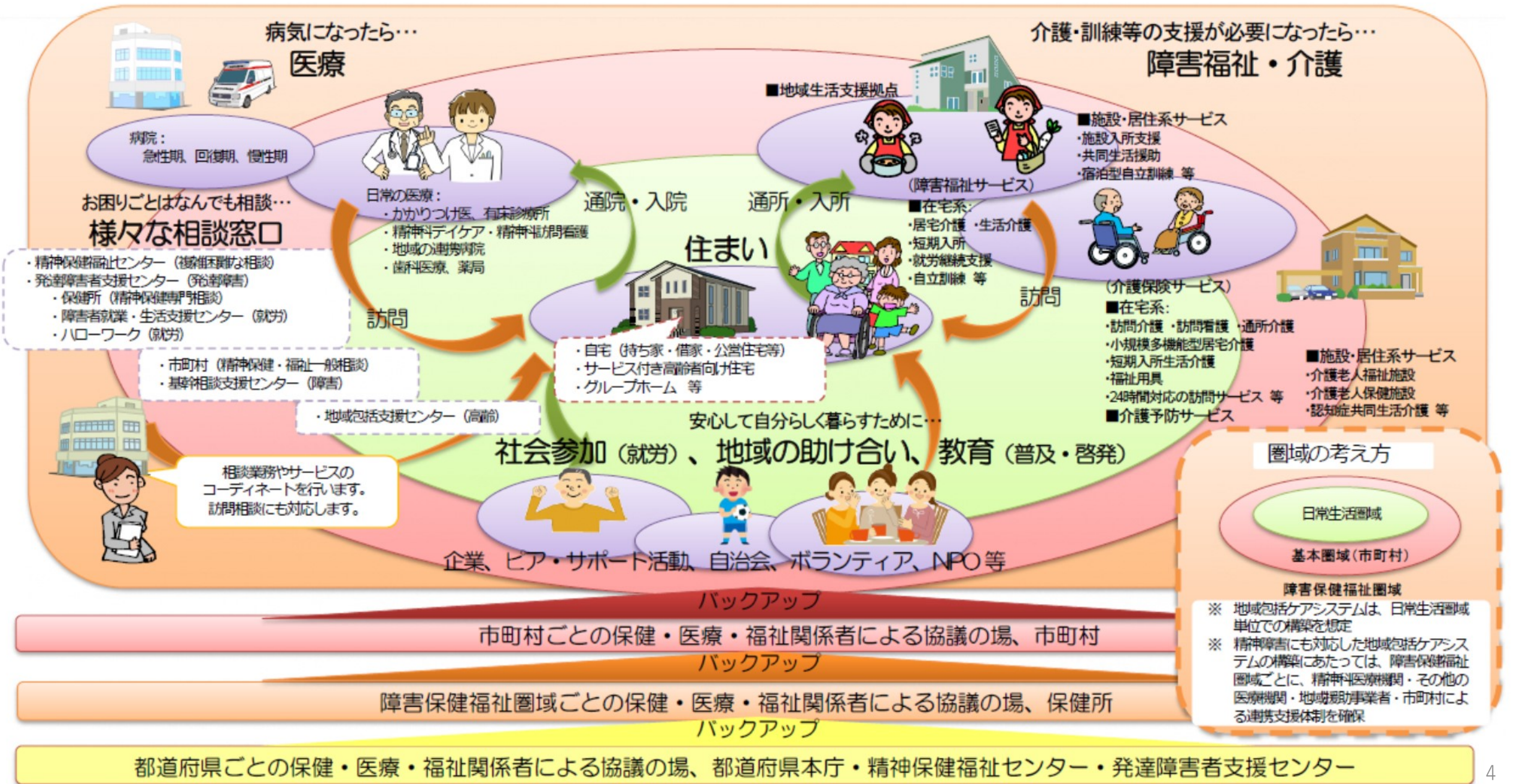
令和3年10月1日 14：00～15：30

本日の流れ

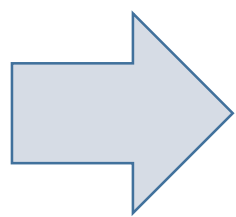
- 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた動き
- 文京区における協議会の流れ（本日の目的）
- 事前にいただいたアンケートの共有
一部、事務局より共有させていただき、
各団体の取り組みについて参加者より共有いただきます。
- 意見交換
既存の取り組みを把握した上で、
強化した方が良いと思われる取り組み、不足している取り組み、
課題やアイデア等を共有

- H16 「精神保健医療福祉の改革ビジョン」
「入院医療中心から地域生活中心」という理念
- 精神疾患を有する患者の数は増加傾向
H29には約420万人、患者数では脳血管疾患や糖尿病を上回る
- H29 「これからの精神保健医療福祉のあり方に関する検討会」
精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが地域の一員として
安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、
障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合い、
教育が包括的に確保された「精神障害にも対応した地域**包括**
ケアシステム」を構築することが適当
- R2 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築
にかかわる検討会」の設置

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築（イメージ）

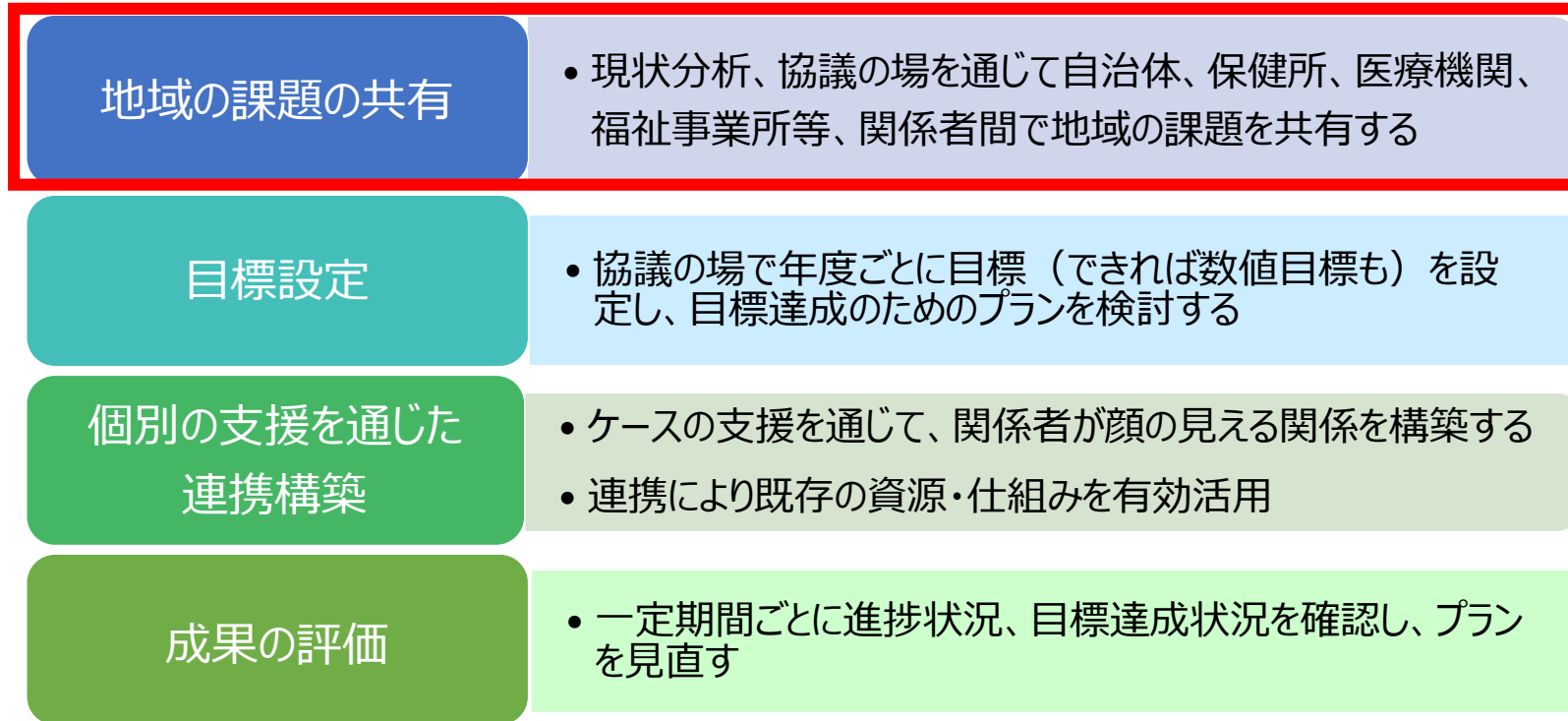


- R元年度『文京区地域精神保健福祉連絡協議会』を「にも包括」の構築に向けた協議会の場として位置付け
- R2年度「にも包括」の概要と協議の場の役割について、理解を深めるための講義を実施
- 地域アセスメントを目的として、『精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた地域の課題の共有のためのアンケート』を実施・集計後、協議会にて共有

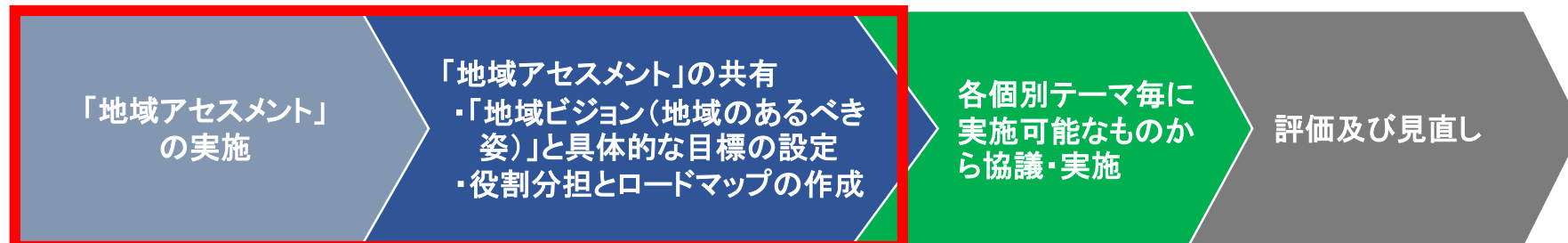


地域アセスメントを深め、委員間で地域の状況に対し、共通認識を持つためにも、もう少しざっくりばらんに議論する時間をもってはどうか？

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築プロセス



<構築プロセス例>



精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた 地域の課題の共有のためのアンケート集計

支援をする、受ける中で感じる文京区の地域特性

(医療機関・相談窓口・サービス等の充足状況、住民性・生活環境等)

(1) 医療機関

【医療】医療機関に恵まれている。

【医療】大学病院等の大きい病院が多い。

【保健】医療機関数だけで言えば、区内には大学病院や中規模医療機関、地域クリニックと充実している

【医療】大学病院・総合病院がかなり多く、有床の精神科医療施設も多い。

【福祉】大学病院があるので、他疾患の治療ができる

【一般】大学病院が多いが、精神保健福祉との連携は特に強いようには思えない。

【福祉】精神科・心療内科等診療所が比較的多いが、単科の精神病院は少ない

【保健】入院病床があるのは大学病院のみのため、重症者・緊急時・レスパイト等の入院が困難

【保健】うつやストレス性疾患等の軽症な精神疾患を扱うクリニックは増えており気軽に受診しやすくなっているが、統合失調症等のいわゆる精神病をしっかりと診てくれるところやデボ剤を扱ってくれるクリニックは少ない

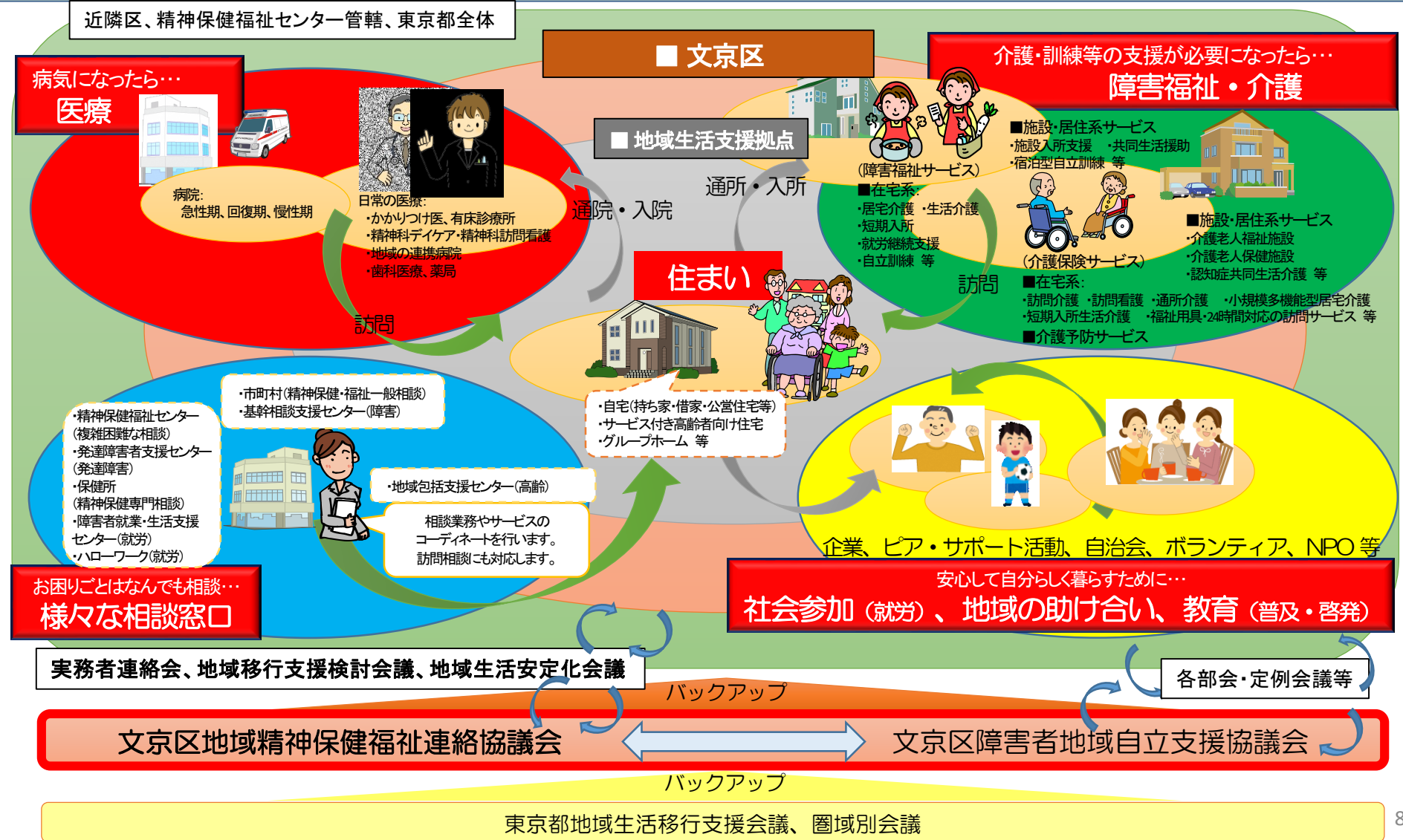
【医療】区内の精神病床は、急性期を除く入院医療に対応できず、遠方の病床へ転院が多い。

文京区の精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指して

* 金川
私見

令和2年度
第一回
地精協資料より

- 精神障害のある文京区民も、同じ区民の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加(就労)、地域の助け合い、教育が包括的に確保された**文京区**の地域包括ケアシステムの構築を目指す必要がある。
- このような精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築にあたっては、計画的に地域の基盤を整備するとともに、**文京区**や障害福祉・介護事業者が、精神障害の程度によらず地域生活に関する相談に対応できるように、**区内**の保健・医療・福祉関係者による協議の場を通じて、精神科医療機関、その他の医療機関、地域援助事業者、**文京区**などとの重層的な連携による支援体制を構築していくことが必要。



文京区の精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指して ～社会参加(就労)、地域の助け合い、教育(普及・啓発)編～

文京区の特徴・強み

- ・
- ・
- ・

文京区の課題等

- ・
- ・
- ・

■文京区

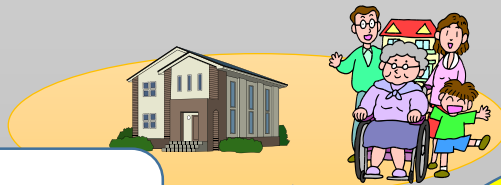
■地域生活支援拠点エリア

文京区〇〇エリアの特徴・強み

- ・
- ・
- ・

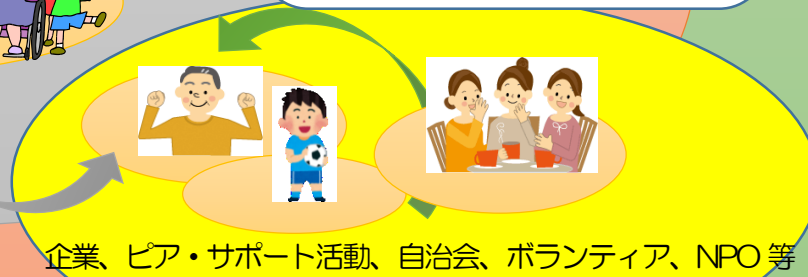
文京区〇〇エリアの課題等

- ・
- ・
- ・



文京区の取り組み

- ・
- ・



文京区の今後の取り組み(アイデア等)

- ・
- ・

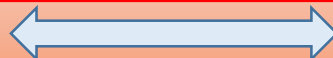
安心して自分らしく暮らすために…
社会参加(就労)、地域の助け合い、教育(普及・啓発)

実務者連絡会、地域移行支援検討会議、地域生活安定化会議

バックアップ

各部会・定例会議等

文京区地域精神保健福祉連絡協議会



文京区障害者地域自立支援協議会

バックアップ

東京都地域生活移行支援会議、圏域別会議

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る検討会報告書（概要）

（令和3年3月18日）

- 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に際しては、精神障害者や精神保健（メンタルヘルス）上の課題を抱えた者等（以下「精神障害を有する方等」とする。）の日常生活圏域を基本として、市町村などの基礎自治体を基盤として進める必要がある。また、精神保健福祉センター及び保健所は市町村との協働により精神障害を有する方等のニーズや地域の課題を把握した上で、障害保健福祉圏域等の単位で精神保健医療福祉に関する重層的な連携による支援体制を構築することが重要。

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る基本的な事項

- 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムでは、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、重層的な連携による支援体制を構築する。
- 「地域共生社会」は、制度・分野の枠や、「支える側」と「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会のつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる包摂的なコミュニティや地域社会を創るという考え方であり、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」は「地域共生社会」を実現するための「システム」「仕組み」と解され、地域共生社会の実現に向かっていく上では欠かせないものである。
- 重層的な連携による支援体制は、精神障害を有する方等一人ひとりの「本人の困りごと等」に寄り添い、本人の意思が尊重されるよう情報提供等やマネジメントを行い、適切な支援を可能とする体制である。
- 同システムにおいて、精神障害を有する方等が必要な保健医療サービス及び福祉サービスの提供を受け、その疾患について周囲の理解を得ながら地域の一員として安心して生活することができるよう、**精神疾患や精神障害に関する普及啓発を推進することは、最も重要な要素の一つであり、メンタルヘルス・ファーストエイドの考え方を活用する等普及啓発の方法を見直し、態度や行動の変容までつながることを意識した普及啓発の設計が必要である。**

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを構成する要素

地域精神保健及び障害福祉

- 市町村における精神保健に関する相談指導等について、制度的な位置付けを見直す。
- 長期在院者への支援について、市町村が精神科病院との連携を前提に、病院を訪問し利用可能な制度の説明等を行う取組を、制度上位置付ける。

精神医療の提供体制

- 平時の対応を行うための「かかりつけ精神科医」機能等の充実を図る。
- 精神科救急医療体制整備をはじめとする精神症状の急性増悪や精神疾患の急性発症等により危機的な状況に陥った場合の対応を充実する。

住まいの確保と居住支援

- 生活全体を支援するという考えである「居住支援」の観点を持つ必要がある。
- 入居者及び居住支援関係者の安心の確保が重要。
- 協議の場や居住支援協議会を通じた居住支援関係者との連携を強化する。

社会参加

- 社会的な孤立を予防するため、地域で孤立しないよう伴走し、支援することや助言等を行うことができる支援体制を構築する。
- 精神障害を有する方等と地域住民との交流の促進や地域で「はたらく」ことの支援が重要。

当事者・ピアサポーター

- ピアサポーターによる精神障害を有する方等への支援の充実を図る。
- 市町村等はピアサポーターや精神障害を有する方等の、協議の場への参画を推進。

精神障害を有する方等の家族

- 精神障害を有する方等の家族にとって、必要な時に適切な支援を受けられる体制が重要。
- 市町村等は協議の場に家族の参画を推進し、わかりやすい相談窓口の設置等の取組の推進。

人材育成

- 「本人の困りごと等」への相談指導等や伴走し、支援を行うことができる人材及び地域課題の解決に向けて関係者との連携を担う人材の育成と確保が必要である。

1. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの基本的な考え方

- 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムでは、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、重層的な連携による支援体制を構築する。
- 「地域共生社会」は、制度・分野の枠や、「支える側」と「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会のつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる包摂的なコミュニティや地域社会を創るという考え方であり、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」は「地域共生社会」を実現するための「システム」「仕組み」である。
- 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの考え方や実践は、地域共生社会の実現に資する各種の取組との連携を図り、地域住民の複雑・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制の構築にも寄与するものであり、地域共生社会の実現に向かっていく上では欠かせないものである。

2. 重層的な連携による支援体制の考え方と構築

- 重層的な連携による支援体制は、精神障害を有する方等一人ひとりの「本人の困りごと等」に寄り添い、本人の意思が尊重されるよう情報提供等やマネジメントを行い、適切な支援を可能とする体制である。
- 重層的な連携による支援体制は、精神障害を有する方等の日常生活圏域を基本として、市町村などの基礎自治体を基盤として進める必要がある。また、市町村の規模や資源によって支援にばらつきが生じることがないように、精神保健福祉センター及び保健所は市町村との協働により、精神障害を有する方等のニーズや地域課題を把握した上で、障害保健福祉圏域等の単位で精神保健医療福祉に関する重層的な連携による支援体制を構築する。
- 重層的な連携による支援体制を構築するためには、精神障害を有する方等の「本人の困りごと等」やそれに対する支援の積み重ね（個別支援）が不可欠である。個別支援に共通する課題から地域課題を抽出し、保健、医療、福祉関係者等による協議の場において、医療機関の職員、地域援助事業者、当事者、ピアサポーター、家族や居住支援関係者等の様々な立場の者が協働し議論をすることが基本となる。

3. 普及啓発の推進

- 精神疾患の早期発見・早期対応を促進し、また、精神障害を有する方等が必要な保健医療サービス及び福祉サービスの提供を受け、その疾患について周囲の理解を得ながら地域の一員として安心して生活することができるよう、精神疾患や精神障害に関する普及啓発を推進することは、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築において最も重要な要素の一つである。
- これまで様々な手法を用いて取り組まれているが、精神疾患や精神障害に関する国民の理解が進んでいるとは言い難く、精神障害に対する差別や偏見は依然として課題であることから、メンタルヘルス・ファーストエイドの考え方を活用する等普及啓発の方法を見直し、態度や行動の変容までつなげることを意識した普及啓発の設計が必要。

- 精神疾患への偏見と差別を減少させ精神疾患への応急対応法を伝えることを目的としている
メンタルヘルス・ファーストエイド*
の考え方を活用した普及啓発及び事業化が考えられる

メンタルヘルス・ファーストエイドの考え方を活用している例

- 自殺対策におけるゲートキーパー養成
 - 専門性の有無にかかわらず支援の輪を広げる
- 認知症サポーター養成
 - 地域住民が認知症の方の支援の輪に入る取組み
- 可能な限り早期に精神疾患や精神障害への理解を促進する観点からは、学校保健と連携した普及啓発が今後も重要

文京区内の活動で把握されているもの アンケートより 【地域の助け合い・教育（普及啓発）】

研修等

- 文京区 ホームヘルプ研修
- 自殺対策を支える人材育成（ゲートキーパー養成講座）

講演会

- 心のふれあいをすすめる会の市民講座（精神保健福祉講演会）
- 共生のための文京地域支援フォーラム*
- 文京区 精神保健講演会

活動、イベント等

- 文京MCA家族のひろば
- 文京総合福祉センター祭り*
- 社会福祉協議会実施の地域サロン活動（こまじいのうち等）
- 心のふれあいをすすめる会（地域交流祭、ふれあいバスハイク）

発行物

- 文京区 心の健康ガイド*
- 心のバリアフリーハンドブック*
- こころの病をもつ方が使える 主な保健・福祉制度*

共生のための 文京地域支援フォーラム

お知らせ

設立趣旨

実行委員会

過去のフォーラム

書籍のご紹介

003973

お知らせ

第17回フォーラム を開催します！

10月上旬に募集を開始します。

令和3年11月21日(日) 午後1:30~3:30

オンライン(ウェビナー)開催

『こころ支える地域を目指して～ある方の生活を通して～』

こころの病は、だれでもかかりうる病気です。日本人のおよそ30人に1人の割合で罹患し、文京区には精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方が1,647人(令和元年度末現在)お住まいです。多くの場合は治療により回復し、社会の中で安定した生活をおくるようになります。

今回のフォーラムでは、こころの病を正しく理解し、当事者のお話を伺うことで、だれもが暮らしやすい地域づくりにつなげていきたいと思っています。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

直接案内をご希望される方は、下記アドレスまでメールをお送りください。

令和元年

文京総合福祉センター祭り

さあ、つながろう! クレ・エ・デ・リアン

*クレ・エ・デ・リアン(仏語)は「つなごう」という意味です。

11/2^土・3^日

10:00~16:00

11/2(土)08:45分からオープニングセレモニーを開催します。

文京総合福祉センター

**参加自由
入場無料**

※一部有料

〒112-0006 東京都文京区小日向2-16-15 TEL:03-5940-2901

※詳しくはホームページをご覧ください。※駐車場はございません。ご来場の際は公共交通機関(電車・バス)をご利用ください。※イラストはイメージです。実際のイベントとは異なります。

■主催:文京区 ■運営:文京福祉センター江戸川橋 ■共催:リアン文京
■後援:文京区社会福祉協議会 ■協力:文京区障害者基幹相談支援センター、子育てひろば江戸川橋

文京区 心の健康ガイド

～精神保健福祉マップ～



2021年 8月

編集・発行 文京区心のふれあいをすすめる会
後援 文京区社会福祉協議会

こころの病をもつ方が使える 主な保健・福祉制度

くらし

自立

医療

就労



まずはご相談ください

お住まいの地区を担当する保健師

※お住まいの住所ごとに管轄地区が決まっております。詳しくはお問合せください。

保健サービスセンター	シビックセンター 8階	☎ 5803-1807
保健サービスセンター本郷支所	千駄木 5-20-18	☎ 3821-5106

文京区障害者基幹相談支援センター

小日向 2-16-15	☎ 5940-2903
文京総合福祉センター 1階	

地域活動支援センター

文京地域生活支援センターあかり	千石 4-27-12 水間ビル 1階	☎ 5976-3351
エナジーハウス	千駄木 5-10-8	☎ 3828-6517
東京カリタスの家 みんなの部屋	関口 3-16-15	☎ 3947-9365
	カトリックセンター地下1階	

演劇上演
企画

「私」と「わたし」

あなたの有期限が
切れましたので
更新にやってきました

発達障害
グレーゾーン

一緒に考えてみませんか？

孤独・孤立



わたしは、
審みたいに
できない

「私」わたし」について

「私」(ADHD男性視点)と「わたし」(ASD女性視点)は発達障害テーマに「好きごもり」,「生きづらさ」,「孤立や孤独」について当事者視点の主演や体験を軸に、発達障害の人かもしれない人も楽しめるのが醍醐味だできるように当事者自身が作って演じている演劇作品です。

発達障害の当事者演劇オンライン上演+ディスカッション

発達障害の当事者自身が主演や体験を軸にした演劇「私」「わたし」オンライン上演の機会、作品の内容や発達障害について、司会者、出演者、観覧者と共に考えるオンラインシンポジウムです。司会者、出演者以外はビデオOFF・ミュートでZOOMに参加いただき、意見や質問は文章によるチャットで受け付けますので、お気軽にご参加ください。タイムテーブルなど詳細はウェブサイトをご覧ください。

出演者

脚本：専修大学出身、株式会社MTC芸術監督、プロデューサー、劇作家、演出家、俳優、ADHD当事者。
脚色：東京大学出身、SPAC(劇団演劇台芸術センター)所属俳優、劇団倉乃屋主宰、ASD当事者。

開催日時：
令和3年6月19日(土) 13~16時

場所：Zoom (事前登録が必要)

使用言語：日本語

司会：澤田欣吾 (相模支那研究開発センター)

対象者：東京大学の在学生 (学部生・大学院生)

Zoomでの上演です

※企画の詳細、事前登録はこちら

<https://dca.edm.u-tokyo.ac.jp/mhs/co-en/>

【本件に関する問い合わせ先】

東京大学 相模支那研究開発センター 助教 澤田欣吾

E-mail: 2267116266@ag.ecc.u-tokyo.ac.jp

QRコード
を
スキャン
してください



CO-ENプロジェクトとは...

芸術家と医療福祉従事者とそのユーザーが連携し、社会全体の健康が向上するための芸術活動について研究・実践するプロジェクトです。

芸術 × 医療 = ?

団体等で実施している活動 (こまごめ緑陰診療所)

- 依存症の回復について知っていただくために
月に1回AA（アルコールクス・アノニマス）というアルコール
依存症の自助グループの方に来ていただき、
通院患者様やご家族に依存症という疾患や回復について
理解の一助になるような機会を設けている

団体等で実施している活動 (文京家族会)

- 文京MCA家族のひろば（講演会、勉強会）
- 例会（文京家族会）
- こころのふれあいをすすめる会（講演・バスハイク）
- 文京総合福祉センター祭り
- 家族会の会員のピア相談支援（適宜対応）
- つくし会（東京都精神保健福祉家族会連合会）
- みんなねっと（全国精神保健福祉会連合会）

団体等で実施している活動 (地域活動支援センターエナジーハウス)

- バザー、精神保健福祉講座
- オープンタ食会
- ほおずき市の参加
- 高齢者センターボランティア
- 世の中お助け隊、社協夏ボランティアの受け入れ

団体等で実施している活動 (日本医科大学付属病院)

- 地域向けの普及啓発活動は組織としては行っていない

団体等で実施している活動 (銀杏企画)

- 地域住民団体（街ing本郷）との連携
（花壇整備、百貨店祭りなど）
- 地域イベントへの参加
- （福祉まつり、東大ホームカミングデイ、町内会防災訓練など）
- 夢の本箱の設置
- 家族教室の開催（文京MCAの皆様へのお声かけ）
- 本郷消防署 防災コンクールに出場（2年連続優勝）

団体等で実施している活動 (東京大学相談支援研究開発センター)

- COVID-19流行下でのメンタルヘルス維持のための啓蒙活動
(ホームページ上)

団体等で実施している活動 (地域活動支援センター あかり)

- 心のふれあいをすすめる会の精神保健福祉講演会への協力
- ふれあいの集いへの参加
- 地域支援フォーラム 実行委員会として参加

団体等で実施している活動

(訪問看護ステーションほのぼのらいふ)

- 精神疾患のご利用者様、ご家族様へ講演会等がある情報を得た場合には情報提供している
- 訪問時に精神疾患に関係すると思われる情報をキャッチした場合は、あんしん拠点や基幹のお話をし、連絡先をお伝えするようになっている

団体等で実施している活動 (社会福祉協議会)

- 地域福祉活動助成事業（自主的に実施する社会福祉の推進する事業に対して、経費の一部を助成する。）
- 精神障害者の福祉の向上を目的とする事業（講演会や学習会、制度や施設を紹介する冊子作成など）に一部助成している。

団体等で実施している活動 (文京区基幹相談支援センター)

- 過去コロナ前は、福祉センター祭りにおいて幻聴体験のコーナーの設置、当事者の方との交流の場を設けていた。
- グループホームの町会活動に参加して、自分たちの法人の取り組みや、障害のある方が地域で暮らしていることを理解してもらっていた。
- 民生委員の勉強会に呼んでいただき、精神障害も含めた障害理解を深めるための話をさせてもらった。

団体等で実施している活動 (銀杏企画 当事者)

- 銀杏企画の家族教室
- 花壇の手入れ
- 共生のための地域支援フォーラム

団体等で実施している活動 (精神保健福祉センター)

- ホームページ、リーフレットや広報誌の発行
- 電話相談、面接相談、家族会（依存症、思春期）
- デイケア（本人）
- 依存症フォーラム（3センター合同）